

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
221331064	栄養教育論実習 I Nutrition education training I	安藤 明美		専門	1	必修	3前期

科目の概要
 管理栄養学科のディプロマポリシーである管理栄養士に必要な疾病・疾病予防・食育に関する専門知識・技能を身に付け、豊かな食生活と健康を創造することができる人材を育成する科目として設定しています。この科目は栄養教育論で修得した学修内容を症例を使い展開します。授業は糖尿病、脂質異常症、高血圧症を予防する対象者の栄養マネジメント法を学びます。以下の3項目を中心に学びます。①対象者健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集、実態の把握、問題点の抽出および分析方法②行動変容を促す行動科学、栄養カウンセリング法の活用法③疾病に応じた栄養教育プログラムの作成。①～③の学修はワークシートを用いてpisa型学力を活用して修得します。また、社会人基礎力の育成は学修行動特性評価シート（PCRシート）を活用し、学部統一のルーブリックで評価します。

学修内容	到達目標
① 症例の栄養状態を評価し、食事摂取基準、食品交換表より栄養管理の基本を理解する。 ② 行動変容を支援するリーフレットを作成するためのデザインの4つの基本を理解する。 ③ 症例に対して、行動科学の理論・モデルの活用法、行動変容を促す食行動技法、栄養カウンセリングの活用法を理解する。 ④ 症例に対する栄養教育マネジメントをするための栄養教育プログラムを理解する。 ⑤ 成果報告のプレゼンテーション技法を理解する。	① 修得した知識を活用して、症例の栄養状態を評価し、栄養改善に必要な食事摂取基準から食品構成を作成することができる。 ② 症例の食行動の問題点を食行動変容技法を活用して、支援するリーフレットが作成できる。 ③ 症例の問題点を改善するための行動科学の理論・モデルを設定して、食行動変容を促す食行動技法、栄養カウンセリング技法を活用できる。 ④ 症例の栄養管理目標を達成する栄養教育マネジメントのための栄養教育プログラムが作成できる。 ⑤ 症例さんの栄養管理目標を達成する栄養教育マネジメントについてプレゼンテーション技法を活用して成果発表ができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	管理栄養士になるために何が常を意識して、管理栄養士は対象者（相談者）に対して実施するコアとなる授業であることを把握します。管理栄養士になる学生は主体性が発揮される授業です。症例の生活状況などを想定して、授業で使用しているテキストに記載されている学修内容だけでなく、複数の図書等の情報を利用して食行動変容を促す栄養教育を自ら取り組むことが主体性を発揮していることです。
	働きかけ力	栄養教育プログラムを完成するにあたり、すでに前期までに学修している知識・技能の復習をする、図書、インターネット情報、教員に質問、授業外でもクラスメイトとディスカッションすることにより新たな知識・技能を獲得することが働きかけが発揮されていることです。
	実行力	栄養教育をするにあたり、管理栄養士として何をやる必要があるか考え、栄養教育のマネジメント、栄養教育プログラムを完成することです。学修した知識・技能の復習、図書、インターネット情報等を収集し成果を上げる行動が実行力が発揮されていることです。
考え抜く力	課題発見力	栄養教育プログラムを完成するにあたり、症例の課題は行動科学の理論・モデルを活用して発見します。獲得している知識・技能に、さらに図書、インターネット情報へ働きかけ新たに知識・技能を獲得して、課題発見をしていることが、課題発見力が発揮されていることです。
	計画力	栄養教育プログラムを完成するにあたり、課題発見、課題解決をするにあたりどんな順番で実践すれば、完成度を上げることができるか段階取りできることが計画力を発揮していることです。
	創造力	栄養教育プログラムを完成するにあたり、すでに獲得している、また新たに獲得した知識・技能を活用して、症例の課題を行動科学の理論・モデルから発見し、解決案を提案できることが創造力を発揮していることです。
チームで働く力	発信力	栄養教育プログラムを完成するにあたり、個人で完成したプログラムはグループ内でブラッシュアップします。個人で発揮した前に踏み出す力、考え抜く力により獲得した知識・能力をグループメンバーに提案することができる、発信力を発揮していることです。
	傾聴力	栄養教育プログラムを完成するにあたり、グループ内でブラッシュアップする際、メンバーの意見や提案を理解しながら聴き取り、さらに完成度を上げる促しや質問をして意見、提案を深掘りすることが傾聴力を発揮していることです。
	柔軟性	栄養教育プログラムを完成するにあたり、ブラッシュアップする際、自己の意見・提案がメンバーと異なっても、自己の栄養教育プログラムをブラッシュアップにいろいろな考え方があつて受け入れることが柔軟性を発揮していることです。
	状況把握力	栄養教育プログラムを完成するにあたり、前に踏み出す力、考え抜く力で自己が決めたこと、チームワーク活動が順調に進んでいるかチェックしながら完成度をあげることができることが状況把握を発揮していることです。
	規律性	授業内で決めたこと、グループ内で決めたことを守ることが規律性を発揮していることです。
	ストレスコントロール力	栄養教育プログラムを完成するにあたり、実践することで発生するストレスに対して、ストレス源を明確にして問題を解決するには何が必要かと受け止め、前向きに取り組むことができていることが、ストレスコントロール力を発揮していることです。

テキスト及び参考文献

教科書：辻とみこ・堀田千津子・平光美津子編著「栄養教育・栄養指導論—演習・実習」みらい、「ヘルス21 栄養教育・指導論 第1版4刷」辻とみ子他 編集 医歯薬出版 価格2,600円＋税
 参考書：授業内容に対応した資料を紹介
 無限の可能性への道-社会人基礎力を育む学泉ノート-。

他科目との関連、資格との関連

栄養教育論実習は、管理栄養士として健康増進、疾病予防を必要とする対象者への直接支援するための実践科目です。したがって基礎科目として食品学、栄養学の知識と栄養教育論Iで修得した食行動変容、カウンセリング、臨床栄養学と関連する科目となります。さらに栄養教育論II、栄養教育論実習IIを学ぶ基盤となる科目です。

学修上の助言	受講生とのルール
栄養教育論で修得した知識・技能の活用法を実習で学修します。ワークシートを使って、栄養教育マネジメントおよび栄養教育プログラムを完成させます。栄養教育プログラムの作成には教育の根拠となるエビデンスが重要となります。栄養教育の基本を復習して授業に臨みます。10週～13週では、グループワークに入ります。クラスメイトと授業外でもコミュニケーションの機会を増やしましょう。	管理栄養士は人の健康を食行動の変容からアプローチする職業です。栄養教育に関する知識・技能の修得だけでなく、健康上の問題点、食生活、医療について興味や好奇心を持ち、これらの情報収集、その課題解決を提案できる習慣を身に付けましょう。また、コミュニケーションは対象者への支援には必須のスキルです、普段から明るく話しかけることを心がけましょう。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	20	①	✓	1) 評価方法 ① 症例の栄養評価と診断基準から疾病を予測することができる。 ② 症例の食の問題行動の分析を元に食行動目標を立てることができる。 ③ 症例の食行動目標を達成する食行動技法、栄養カウンセリング技法を適切に活用することができる。 ④ 栄養教育プログラムを構成することができる。 ⑤ 栄養教育に関する栄養素等の算出ができる。 2) 評価ポイント 到達目標①～⑥について、それぞれ問題を出します。その得点で評価をします。 ・到達目標の①～⑥について、それぞれ知識の獲得、課題発見とその課題解決への知識の活用ができることを評価します 3) 評価基準 S: 到達目標①～⑥に該当する問題をそれぞれ出題する①～⑤平均9割以上でできている。 A: 到達目標①～⑥に該当する問題をそれぞれ出題する①～⑤平均9割未満～8割以上でできている。 B: 到達目標①～⑥に該当する問題をそれぞれ出題する①～⑤平均8割未満～7割以上でできている。 C: 到達目標①～⑥に該当する問題をそれぞれ出題する①～⑤平均7割未満～6割以上でできている。 F: 到達目標①～⑥に該当する問題をそれぞれ出題する①～⑤平均6割未満である。
				②	✓	
				③	✓	
				④	✓	
				⑤		
	小テスト	20	①		1) 評価方法 ・中間テストを実施する。 試験内容は、基礎的な理論と応用力ができることを確認する。 2) 評価ポイント ・90点以上：S、80点以上90点未満：A、70点以上80点未満：B、60点以上70点未満：C、60点未満：Fとする。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤			
	レポート	30	①	✓	1) 評価方法 到達目標①～⑤をア～キのワークシートで評価する。 ・症例のア、食行動の問題点の抽出、イ、食行動目標（栄養改善）、ウ、食行動技法、エ、栄養教育プログラムの立案、オ、栄養教育プログラム（12回分）、カ、本時の授業（導入・展開・まとめ）、授業評価、プレゼンテーション 2) 評価ポイント S: 学習者の栄養管理目標を達成できる内容でアからキ平均9割以上のレベルで作成されている。 A: 学習者の栄養管理目標を達成できる内容でアからキ平均8割以上9割未満のレベルで作成されている。 B: 学習者の栄養管理目標を達成できる内容でアからキ平均7割以上8割未満のレベルで作成されている。 C: 学習者の栄養管理目標を達成できる内容でアからキ平均6割以上7割未満のレベルで作成されている。 F: 学習者の栄養管理目標を達成できる内容でアからキ平均6割未満のレベルで作成されている。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	20	①		1) 評価方法 (a) 作成したリーフレットを評価します。症例の食行動変容を促す支援となるかを以下の3項目で評価します。 a. デザインの基本を活用している b. 目的が明確になっている c. 食行動変容にアプローチできる (2) グループで症例の栄養教育プログラムの発表を以下の5項目で評価します。 a. ストーリーが一つの流れになっていること b. 聴きやすい話かたであること c. 提示媒体が見やすいこと d. 理論的な内容であること e. 行動変容支援可能な内容である 2) 評価ポイント 評価項目を1点から5点で評価します。 S: a～eの得点が平均9割以上 A: a～eの得点が平均8割以上9割未満 B: a～eの得点が平均7割以上8割未満 C: a～eの得点が平均6割以上7割未満 F: a～eの得点が平均6割未満		
		②				
		③				
		④				
		⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	1) 評価方法 評価方法は観点別学修評価シートを用いて、学部統一のルーブリックで評価します。各能力は4点満点とします。 (主体性) 授業で使っているテキストに記載されている学修内容だけでなく、複数の図書を利用して食行動変容を促す栄養教育プログラムを完成することができる。 (実行力) すでに前期までに学修している知識・技能の復習をする、図書、インターネット情報、教員に質問、授業外でもクラスメイトとディスカッションすることにより新たな知識・技能を獲得できている。 (課題発見力) 症例の課題は行動科学の理論・モデルを活用して課題を抽出することで、すでに獲得している知識・技能を使い、「働きかけ力」に記述した事を実践して、さらに新たな知識・技能を獲得して、症例の課題が発見できている。 (創造力) 症例の栄養改善をするにあたり、抽出された課題をすでに獲得している、また新たに獲得した行動科学の理論・モデル、食行動技法、栄養カウンセリング技法を用いて解決できている。 (発信力) 個人で完成した栄養教育プログラムはグループ内でディスカッションしながらブラッシュアップします。その成果の発表・質疑応答ができている。 (協働性) グループ内でディスカッションする内容を深掘りする質問等ができる。 (規律性) ワークシートは期限内に提出できている。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
総合評価割合			100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
成績の基準は、栄養教育の到達目標の達成度で評価します。 ① 症例の栄養状態を評価し、栄養管理に必要な食事摂取基準と食品構成に修正する箇所がない。 ② 症例の食行動変容を支援するリーフレットがデザインの4つの基本を活用して作成できている。 ③ 症例の適切な栄養管理目標を行動科学の理論・モデルから構成できている。 ④ 症例の食行動変容を促す食行動技法が適切に使われたワークシートを作成している。 ⑤ 症例の栄養管理目標を達成する栄養教育プログラム構成ができている。 ⑥ プレゼンテーション技法を実践した成果発表ができている。 Sは上記項目①～⑥全てできている。 Aは上記項目①～④と⑥の項目は全てできている。⑤の栄養教育プログラム構成が段階に構成されていない部分がある。	成績の基準は、栄養教育の到達目標の達成度で評価します。 ① 症例の栄養状態を評価し、栄養管理に必要な栄養摂取量と食品構成の修正がない。 ② 症例の食行動変容を支援するリーフレットが作成できている。 ③ 症例の適切な栄養管理目標を行動科学の理論・モデルから構成できている。 ④ 症例の食行動変容を促す食行動技法が適切に使われたワークシートを作成している。 ⑤ 症例の栄養管理目標を達成する栄養教育プログラム構成ができている。 ⑥ プレゼンテーション技法を実践した発表ができている。 Bは①～③はできている。④食行動技法が適切に使われていない。⑤栄養教育プログラムの段階を理解していない部分が複数ある。⑥プレゼンテーションの技法を実践していない。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション ・学修内容を理解する ・PCRシートの活用 (社会人基礎力の能力要素の発揮法) ・栄養教育論の基礎知識確認テストを実施する	<講義・確認テスト> ・オリエンテーション後、栄養教育論の知識確認テストをする。 ・クラス全体で、確認テスト内容について、解答を発表する。 ・本時の授業内容について google home (PCRシート) を活用して課題を出し授業の理解度を深める。	・栄養教育論確認テストで60%以上の得点率とする。	(予習) ・「無限の可能性への道」、シラバスを読む。 ・前期栄養教育論の内容を十分に理解して臨む。 (復習) ・栄養教育論確認テストの復習をする。	30	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	症例の生活習慣病予防の栄養教育①(個人ワーク) 症例の栄養アセスメントと実態を把握する ・疾病別の診断基準の把握 ・食事摂取基準、食品構成表の作成	<講義・実習> ・3症例より1つ選び、患者対応の食事摂取基準・食品構成表を完成させる。 ・本時の授業内容について google home (PCRシート) を活用して課題を出し授業の理解度を深める。	・食事摂取基準と食品構成表が作成できる。	(予習) ・日本人の食事摂取基準と食品構成の算出法を理解して臨む。 ・疾病別の診断基準を把握して臨む。 ・PCRシートのP(予習)を実施する。 (復習) ・食事摂取基準と食品構成表の見直しをする。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	30	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	症例の生活習慣病予防の栄養教育②(個人ワーク) ・症例に対応した行動変容段階(ステージ)、食行動技法、栄養カウンセリングをする	<講義・実習> ・症例の栄養相談の内容からステージを明確にする、食行動技法と栄養カウンセリングがどのように使われているか明確にする。 ・クラス全体でディスカッションする。 ・本時の授業内容について google home (PCRシート) を活用して課題を出し授業の理解度を深める。	・患者の食行動の問題点が抽出できる。	予習) ・トランスセオリアルモデル、食行動技法、栄養カウンセリング技法を理解して臨む。 ・PCRシートのP(予習)を実施する。 (復習) ・症例のステージ、食行動の問題点を再度確認する。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	30	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	症例の栄養教育プログラムの作成③(個人ワーク) ・食行動の問題点と行動目標、栄養管理目標を設定する。 ・栄養教育プログラムの全体計画の立案する。	<講義・実習> ・症例の食行動の問題と目標行動、栄養管理目標、疾病の管理目標をプリシード・プロシードモデルで設定する。(ワークシート1) ・本時の授業内容について google home (PCRシート) を活用して課題を出し授業の理解度を深める。	・ワークシート1が完成できる。	(予習) ・プリシード・プロシードモデル、栄養教育の目標設定を理解して臨む。 (復習) ・ワークシート1をブラッシュアップする。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	30	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	症例の栄養教育プログラムの作成④(個人ワーク) ・栄養教育計画書を作成する	<実習> ・症例のステージをアップするための「栄養教育の全体計画」を作成する。(ワークシート2) ・本時の授業内容について google home (PCRシート) を活用して課題を出し授業の理解度を深める。	・ワークシート2が完成できる。	(予習) ・栄養教育の教育計画書の作成を理解して臨む。 (復習) ・ワークシート2をブラッシュアップする。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	30	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	症例の栄養教育プログラムの作成⑤(個人ワーク) ・栄養教育プログラムを作成する	<実習> ・栄養教育の全体計画を実施するための「栄養教育プログラム」を作成する。(ワークシート3) ・本時の授業内容について google home (PCRシート) を活用して課題を出し授業の理解度を深める。	・ワークシート3が完成できる。	(予習) ・栄養教育のプランニングについて理解して臨む。 (復習) ・ワークシート3をブラッシュアップする。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	症例の栄養教育プログラムの作成⑥(個人ワーク) ・栄養教育の学習指導案の作成と栄養教育実施の評価法を作成する。 ・本時の授業内容について google home (PCRシート) を活用して課題を出し授業の理解度を深める。	<実習> ・栄養教育プログラムの中で、栄養教育で一番重要である回を1つ選び学習指導案を作成する。 ・授業実施にあたり評価項目を設定する。 ・授業実施にあたりプレゼンテーション評価項目を設定する。(ワークシート4・5・6)	・ワークシート4-6が完成できる。	予習) ・学習指導案について理解して臨む。 (復習) ・ワークシート4-6をブラッシュアップする。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	・中間テスト 栄養教育プログラム作成に必要な知識と活用について到達度を確認する ・リーフレット作成ポイントを理解する	<中間 確認テスト> <講義> ・リーフレット作成に必要なデザインのうち4つの基本を理解する。 ・症例の食行動の問題点を整理する。	中間テストの得点6割以上とする。	(予習) ・栄養教育プログラムに関する知識とその活用について学修して臨む。 ・PCRシートのP(予習)を実施する。 ・症例の栄養管理目標を達成する行動技法を理解して臨む。 (復習) ・到達確認テストを100点にする。 ・デザインの4つの基本を活用した症例のリーフレットの概要を考案する。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	症例の栄養教育媒体(リーフレット)作成⑦(個人ワーク) 症例の栄養管理目標を達成するリーフレットを作成する(媒体作成)	<実習> ・症例のリーフレットをパワーポイントで、デザインの4つの基本をもとに作成する。	・行動変容を促すリーフレットが完成できる。	(予習) ・症例の栄養管理目標を達成する行動変容技法を復習して臨む。 (復習) ・リーフレットを完成する。	30	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	・リーフレットを評価する(全体) ・症例のワークシート1～6をグループでブラッシュアップする(グループワーク)	<実習> ・個人のリーフレットをメンバー全員で評価する(評価用のルーブリックを理解する)。 ・メンバー間で個人が作成したワークシートについて、説明する。	・他者のリーフレットを評価できる。 ・自己のワークシート1-6をメンバーに説明できる。 ・メンバーのワークシート1から6を理解できる。	(予習) ・リーフレット評価基準を明確にする。 (復習) ・グループメンバーのワークシート1-6を理解する。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	11週から12週連続学修内容 ・14週、15週で発表する原稿とPP等の作成をする(グループワーク) 個人で作成したワーク1-6と媒体を元に、グループで1つの栄養教育プログラムを作成する(ワーク1-3完成) ・プレゼンテーションスキルを理解する	<講義・実習> ・プレゼンテーションスキルを理解する。 ・グループ・リーダーを決め11週～12週を計画的に進める方法について、ディスカッションする。	・ワークシート1～6の作成にあたり、提案、意見、改善を各1つ以上、シートごとに発信できる。	(予習) ・PCRシートのp(予習)を実施する。 (復習) ・授業内で完成しなかったワークシートについては12週までに完成させる。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	11週から12週連続学修内容 ・14週、15週で発表する原稿とPP等の作成をする(グループワーク) ・個人で作成したワーク3-6と媒体を元に、グループで1つの栄養教育プログラムを作成する(ワーク4-6完成) ・プレゼンテーションスキルの理解する	<実習> ・グループ・リーダーを決め11週～12週を計画的に進める方法について、ディスカッションする。	・ワークシート1～6の作成にあたり、提案、意見、改善を各1つ以上、シートごとに発信できる。	(予習) ・ワークシートのブラッシュアップをして臨む。 (復習) ・リーダーは、授業内で進められなかったシートを完成する。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	30	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	プレゼンテーション技法を活用して発表のリハーサルをする(グループワーク)	<実習> ・発表用シート修正をする。 ・発表原稿を作成する。 ・リハーサルをする。 ・質疑応答の準備をする。 ・学生間でgoogle Meetを活用して意見効果をする。	・発表評価の10項目の評価3以上にできる。	(予習) ・プレゼンテーションスキルを熟知して臨む。 (復習) ・提示用シートの修正、プレゼンテーションの練習をする。 ・PCRシートのR(復習)を実施する。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	14週-15週連続学修 ・症例の栄養管理目標を達しするワークシート1～6の成果のプレゼンテーションする。 ・発表方法、内容について評価をする。	<実習> ・グループ発表、メンバー全員が発表を担当する。 ・質疑応答、評価をする。 評価は学生全員が、ルーブリック形式で評価し、課題を発見する。	・プレゼンテーションスキルを活用したプレゼンができる。 ・個人活動では、プレゼンテーションスキルを評価することができる。	(予習) ・プレゼンテーションの評価ポイントを明確にして臨む。 ・プレゼンテーションの練習をして臨む。 (復習) ・自己のグループ発表の良い点と改善点を明確にする。 ・他グループの発表について、質問・意見をする。	30	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	14週-15週連続 ・症例の栄養管理目標を達しするワークシート1～6の成果のプレゼンテーションを行う。 ・発表方法、内容について評価をする。	<実習> ・グループ発表、メンバー全員が発表を担当する。 ・質疑応答、評価をする。 評価は学生全員が、ルーブリック形式で評価し、課題を発見する。	・プレゼンテーションスキルを活用したプレゼンができる。 ・個人活動では、プレゼンテーションスキルを評価することができる。	(予習) ・プレゼンテーションの評価ポイントを明確にして臨む。 ・プレゼンテーションの練習をして臨む。 (復習) ・自己のグループ発表の良い点と改善点を明確にする。 ・他グループの発表について、質問・意見をする。	30	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
221332065	栄養教育論実習Ⅱ Clinical Education of Nutrition : Internship	岡本康子	○	専門	1	選択	3後期

科目の概要

食の専門家としての疾病治療・重症化予防、疾病予防、食育を食環境を整えるための知識と技能を磨き、実際に栄養居いくができるようにする。ライフステージ（乳幼児期、学童期、思春期、高齢期、妊娠期など）・ライフスタイルを考慮し食育を目的とした健康人に対する集団指導、および医師の指示により、食事療法や生活習慣の改善が必要な対象者に対し実施される集団指導を展開する。臨床における栄養教育は個人指導は、食事療法や生活習慣の改善が必要な疾患に対し、医師の指示箋（栄養指導依頼箋）のもと実施される。管理栄養士として対象者（患者等）の問題点を的確に把握し、実行可能・継続した栄養教育・支援をすることが重要である。そのためにカウンセリングもふまえ、個人・集団指導の違いを理解し、患者に適した教育方法を習得する必要がある。また多職種とコミュニケーションをはかるためカルテ記載（SOAP）で提案、栄養診断からの教育ができるような技術を習得する。またこれは、25年間の病院勤務経験、医療人としての経験を生かし実践から栄養教育の技能を指導を行う。

学修内容	到達目標
① 対象者の問題点把握、栄養診断、指導、指導の評価から、食生活上の問題点を明確にする方法を学ぶ ② 症例をとおして問題点の記述方法を学ぶ（SOAP） ③ 特定保健指導を理解し、個人（健診者）への栄養指導の方法について、知る ④ 集団栄養指導のメリット・デメリットを学び、健康人、傷病者、それぞれに適した計画の立案及びその実践を学ぶ	① 対象者の問題点把握、栄養診断、指導、指導の評価から、食生活上の問題点を明確にすることができる。 ② 症例をとおして問題点や提案をSOAPで記入できる ③ 健診者に対する栄養支援ができる ④ 集団指導のメリットを生かし、健康人及び傷病者に対しそれぞれに適した集団指導の計画を立案をできるとともに実践することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	自分がやるべきことを見極め、自発的にとりくむことができる。
	働きかけ力	周囲の方々に対し、目標達成へむけ、邁進できるように協力を仰ぐことができる。
	実行力	成果に喜びを感じ、目標達成に向かい粘り強く取り組みを続けることができる。
考え抜く力	課題発見力	現状を正しく把握し、情報収集や分析をして課題を明らかにすることができる。
	計画力	作業のプロセスを明らかにし、優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てるとともに柔軟に計画を修正できる。
	創造力	従来の常識や発想を転換し、新しい解決策を生み出すことができる。
チームで働く力	発信力	相手がどんな情報を求めているかを理解し、具体的にわかりやすく伝えることができる。
	傾聴力	相槌や共感等により、相手に話しやすい環境を作るとともに、素直に聞くことができる。
	柔軟性	自分の意見を持ちながら、相手の意見をよく理解し、共感することができる。
	状況把握力	自分の期待されている役割を認識し、行動することができる。
	規律性	ルールを把握し、そのルールや約束をまもることができる。
	ストレスコントロール力	ストレスの原因を知り、解決・発散する方法を身につけることができる。

テキスト及び参考文献

エッセンシャル栄養教育論（医歯薬出版）
 新版ヘルス21 栄養指導・栄養教育論 なぜ？ どうして？ 臨床栄養学 ①②（メディックメディア）

他科目との関連、資格との関連

基礎栄養をもとに、栄養教育論Ⅱの実習版で、実際の栄養指導を実践し、人々の健康を栄養面から支援でき、さらに今後学ぶ栄養カウンセリング論にて心のケアまで支援できる管理栄養士を育成する
 資格との関連 管理栄養士

学修上の助言	受講生とのルール
予習、復習を必ずおこない、確実に基本を覚えていくことがたいせつです。また栄養指導の効果を発揮するための媒体物、知識等が必要です。さらに病態別に栄養教育を実施するための応用ができるようになります。	グループワークが多くなるかと思えます。ほかの人の意見をよく聞く（傾聴力）とともに積極的に意見を発信し、授業に臨みましょう。従来の常識や発想を転換し、新しい解決策を生み出すことができる努力をしましょう。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	40	①	✓	基礎内容を理解しているか、授業で学習した内容が身についているかを評価する ポイント 対象者の問題点把握、SOAPの記載、栄養診断、目標計画、指導の評価を実施することができるかを評価する レポートが確実にできていれば答えられる	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
	平常評価	小テスト	0	①		
				②		
				③		
				④		
		レポート	30	①	✓	3症例に対して栄養指導依頼箋兼報告書が作成できる 行動変容ステージの把握、問題点、栄養診断、目標計画（結果目標にもとづいた、学習、行動、環境目標）が立案できる。 各10点 提出は学修した翌週の4週目、5週目、6週目すべてできて10点
				②	✓	
③	✓					
④	✓					
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	20	①	✓	第11週、第14週において模擬教育指導をグループごとに行う。プレゼンテーションの内容、表現・説明の明瞭さ、グループ活動への協力を評価する 各5点 安産教室用媒体 集団指導用媒体（糖尿病教室など） 5点×2		
		②	✓			
		③	✓			
		④	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）自発的に取り組むことができる （実行力）媒体作成や資料作成など粘り強く取り組むことができる （課題発見力）情報収集や分析をして課題を明らかにすることができる （創造力）新規性に富んでいる （発信力）具体的にわかりやすい媒体の作成などができる （傾聴力）相手の話をよく聞くことができる （規律性）授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。 ※学修行動特性評価シートのルーブリックVer. 1.1にて評価	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
臨床で栄養教育を行う上で必要な、行動変容ステージを把握し、食習慣・行動の問題点を見極め、あくまでも患者主体に、正しい行動変容へむけ、意欲的に取り組むことができる 栄養診断や栄養計画が正しく立案でき、多職種にも理解しやすい指導報告書（SOAP）がかけられる 筆記試験・レポート提出が80%以上	臨床で栄養教育を行う上で必要な、行動変容ステージを把握し、食習慣・行動の問題点を見極め、あくまでも患者主体に、正しい行動変容へむけ、取り組むことができる 栄養診断や栄養計画が立案でき、多職種にも理解しやすい指導報告書（SOAP）がかけられる 筆記試験・レポート提出が70%以上

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	全体のガイダンス 授業の運営、目標・評価方法等を解説 学泉ノート シラバスの説明	講義 3分間スピーチGoogle クラスルームを用いる	相手の話を聞きとる傾聴力、コミュニケーションをし、その内容から問題点をみつけ、まとめられる	予習：臨床栄養教育論で学んだことを見直してくる 復習：目標を設定する	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	栄養指導依頼箋の見方 栄養指導報告書の書き方 SOAPについて学ぶ 栄養診断について学ぶ	講義 演習 Googleクラス ルームを用いる	栄養指導の依頼内容の把握 何を聞き取るべきかがわかる 栄養診断を理解する 指導後の記録を書くことができる	予習：栄養指導はどんな病気について行うのかを事前に把握する 復習：症例に対し情報収集と問題点リストを作成してみる	130	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	栄養指導報告書を記入する技術を習得する 症例（内分泌・代謝疾患）	演習 グループワーク Googleクラスルームを用いる	問題点を正しく把握し、提案する技術、報告書を書くことができる	予習：糖尿病の食事指導のポイント、把握すべきことをノートにまとめてくる 復習：糖尿病患者の報告書作成	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	栄養指導報告書を記入する技術を習得する 症例（循環器疾患 高血圧）	演習 グループワーク Googleクラスルームを用いる	問題点を正しく把握し、提案する技術、報告書を書くことができる	予習：高血圧の食事指導のポイント、把握すべきことをノートにまとめてくる 復習：報告書作成	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	栄養指導報告書を記入する技術を習得する 症例（循環器疾患 脂質異常）	演習 グループワーク Googleクラスルームを用いる	問題点を正しく把握し、提案する技術、報告書を書くことができる	予習：脂質異常症の食事指導のポイント、把握すべきことをノートにまとめてくる 復習：報告書作成	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	特定保健指導について学ぶ成人期(特定保健指導)	演習 グループワーク ロールプレイ Google クラスルームを用いる	特定保健指導での栄養教育の流れがわかる 計画が立案できる 特定保健指導の実際を理解できる	予習：特定保健指導と病院の栄養指導の違いを調べてくる 復習：特定保健指導の流れ、演習の実際をまとめる	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	集団指導の設計を学ぶ ライフステージ・ライフスタイル別	演習 グループワーク Googleクラスルームを用いる	ライフステージに応じた栄養教育プログラムを作成することができる	予習：ライフステージについて応用栄養学等を参考にまとめてくる 復習：ポイントをまとめる	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	集団指導の設計を学ぶ ライフステージ・ライフスタイル別	演習 グループワーク Googleクラスルームを用いる	指導媒体の作成指導用のスライドを作成する、発表できるように準備ができる	予習：媒体を調べる復習：ポイントをまとめる	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	ライフスタイル別の栄養教室を実演する	集団指導実技 グループ Googleクラスルームを用い評価	プレゼン内容がみんなにわかりやすい。プレゼンテーションスキルがあるか。ほかのグループの発表を聴き、評価できる	予習：発表の準備 復習：他グループの発表と自分たちの発表の違いを検証する	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	ライフスタイル別の栄養教室を実演する	集団指導実技 グループ Googleクラスルームを用い評価	プレゼン内容がみんなにわかりやすい。プレゼンテーションスキルがあるか。ほかのグループの発表を聴き、評価できる	予習：発表の準備 復習：他グループの発表と自分たちの発表の違いを検証する	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	集団指導の設計を学ぶ 病院における糖尿病教室 腎臓病教室 高血圧教室 から選択する	講義 演習 グループワーク Googleクラスルームを用いる	集団指導の計画が立案できる 必要な媒体を選択できる	予習：臨床栄養学等を参考に疾患集団教室を調べてくる 復習：ポイントをまとめる	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	集団指導に必要な媒体・技術を学ぶ	演習 グループワーク Googleクラスルームを用いる	集団指導の計画が立案できる 必要な媒体を選択できる	予習：発表にむけて準備する 復習：発表にむけて準備をする	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	集団指導の実演 Googleクラスルームを用い評価	演習	わかりやすいプレゼン内で、プレゼンテーションスキルを十分発揮できる。 ほかのグループの発表を聴き、評価できる	予習：発表の準備 復習：他グループの発表と自分たちの発表の違いを検証する	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	集団指導の実演 Googleクラスルームを用い評価	演習	わかりやすいプレゼン内で、プレゼンテーションスキルを十分発揮できる。 ほかのグループの発表を聴き、評価できる	予習：発表の準備 復習：他グループの発表と自分たちの発表の違いを検証する	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	まとめ 補足をする	講義 グループワーク Googleクラスルームを用いる	他グループの発表と自分たちの発表の違いを検証することができる	予習：課題発見、他チームと自分のチームの比較をしてくる 復習：今までの疑問点を整理する	135	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力